

# 國朝大業廣記

四十一  
之三

庫	文	閣	內	
四九函	七一册	三二九一號		和書類

91

內閣文庫	
番號	和 31291
冊數	71 ( 21)
函號	149 110

共七十一



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





國朝大業廣記卷之四十一

天正十一年

八月大

○ 醫 氏 政 以 命 一 依 此 條 左 右 門 佐

氏 志 右 門 佐 氏 志 右 門 大夫 氏 志 右 門 佐

知 事 郡 一 打 上 兵 助 水 田 一 誠 一 在 下 止 力 古 有 等

可 善 先 寺 一 德 川 藤 氏 一 德 川 氏 志 右 門 佐

八 又 一 藤 氏 政 氏 志 右 門 佐 氏 志 右 門 佐

一 夕 新 府 一 政 氏 志 右 門 佐 氏 志 右 門 佐

一 政 氏 志 右 門 佐 氏 志 右 門 佐 氏 志 右 門 佐



國朝大業廣記卷之四十一

山名氏藏書

天正十年

八月大

二日 嚮ニ氏政ノ命ニ依テ北條左衛門佐

右衛門佐氏亮左衛門大夫氏勝一万餘甲州

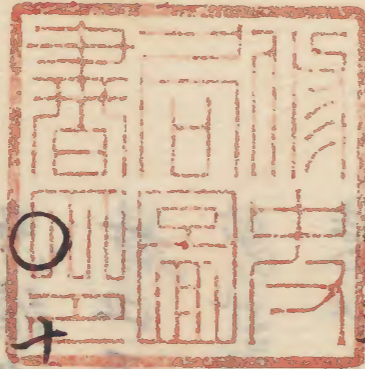
都留郡ニ打入黒駒味垣ノ城ニ在ケルカ古府并

新善光寺ノ德川家甚ク微勢タルニ其間氏忠

ハ火ヲ發テ攻破リ氏亮氏勝ハ其烟ヲ見ルト均

シク新府ヲ攻撃ハテ德川衆堪ヘ兼下山筋ヲハ

駿府ヘ敗績セラレヘシ其時ニ氏忠氏亮西口ヨリ





追討ノ塵ニセント相謀テ氏堯氏勝ハ東都ニ働  
キシカハ左衛門佐氏忠ハ雜兵三千味垣ノ城ヨ  
リ黒駒ニ押出シ市川ノ燒口ト云フ山ニ引取ル  
シケル古府ノ味方光功ノ部将等此謀ヲ察シ却  
テ是ヨリ兵ヲ發ス所謂鳥居彦右衛門元忠内藤  
三左衛門信成水野藤十郎勝成後白松平備後  
守清宗高力權九衛門正長三宅宗右衛門康貞等  
千五百餘兵ナリ左衛門佐氏忠微幣ニテ油断有  
ケル處ニ味方ノ遣兵急ニ攻蒐リケレハ大ニ敗  
走ス内藤信成魁ニ敵ヲ黒駒ニ追入ル北條勢モ

返シ戦フ水野勝成カ士太田仁藏一番首ヲ得ル  
鳥居元忠ハ敵ノ後路ヲ遮キリケレハ北條方擬  
議ノ進マズ元忠カ從士鈴木源分一番ニ馳入元  
忠旗ヲ揮テ衆ヲ進メ窮ツカテ馬ヲ入ルニ其  
隊百騎許一度ニ競ニ蒐シハ敵大ニ敗北シ間宮  
新九郎門康信田中五郎九衛門中野氏ヲ初下メ  
多少命ヲ殞シ内藤信成カ一隊ニ敵首三十餘  
級ヲ討取ル敵藤岡并築井内藤大和守秋宣モ亦  
堂ノ木ノ町ニテ返シ戦フ西度松平備後守清宗  
ニケ度此ニ鎧ヲ合ス冬州守人佐橋甚四郎強弓



ニテ水野勢下同シ堂ノ木ノ橋際ニテ頻リ矢ヲ放ツ處ニ鉄炮ニテ弓ヲ打折テ水野カ部下滋野善十郎落合丸平治及三宅久徳士大河内某巨摩郡ノ武川衆能戦フ其外辻甚内高橋次丸相門中根長右未門土屋次郎右未門相共ニ功名ノ敵ヲ味坂ノ下マテ追討シ敵或ハ巖石ニ當テ死セスル者総テ二千六百七十餘ト云々西江右京福嶋丹波大草丹後内藤右近遠ト遁レ山林ニ逃隠ル氏忠カ馬勞ノ進マス福嶋カ馬ヲ借テ漸ク是ニ乘リ只二騎味坂ノ城ニ入ル

○高カ家傳曰權九未門正長後河内平原次郎ヲ討取御カヲ賜フ

○或曰今日神君新府ニテ陣煙ヲ見玉ヒ味方勝タリト宣ヒケルカ果ノ古府ヨリ捷ヲ告奉ル又滋野善十郎ハ場ヲ溯サル者ナリ功名スヘシト仰ケルカ果ノ首ヲ獻ス此善十郎慶長ノ末ニ常陸カ頼宣君ニ附属セラル

○於新府今日古府ニテ討取首三百餘敵陣迄キ邊ニ柵ヲ結ヒ之ヲ梟セラルニ未タ氏直ノ勢ハ此敗軍ヲ知サル處ニ彼首ハ己カ親戚朋友タル



ヲ見テ大ニ驚キ悲ム是ヨリ弥敵軍ニ神居ヲ懼  
ルト云々

○或曰知見寺城前於若御子忠戦ヲ成シ御誕  
ヲ以テ葛木ト改メ御家人ニ列ス

○或曰若御子筋ニメ度ニノ迫合ニ大湊賀神  
原勝利ヲ得ル時ニ此二將ニ本多豊後廣孝ヲ

加ヘ若御子ニ化スヘキ旨教令アリ是國人調  
略シ氏直

○巨摩郡惠林寺筋中麻木表ノ軍ニ吾軍岡部次  
郎右衛門多田淡路功ヲ竭シ敵黒沢五郎カ二千

餘ヲ破リ大村存生ヲハ増上淡路是ヲ撃捕存生

カ子伊賀ヲハ岡部忠次郎之ヲ撃捕テ大野ノ砦

ニ持行テ松平家清内藤家長ニ達ル黒沢忽兵  
ヲ返ス

○松平周防守康親大沢兵部大輔基宿小笠原安

藝信元同丹波安次同市藏時忠山田八藏  
重英子三枝橋

ヲ守ル薙山ノ北條美濃守氏規カ兵ニ小田原ノ

加勢橋本兵部相共ニ三嶋ニ出張ス康親黃瀬川

ヲ越テ合戦シ大ニ勝利ヲ得ル小笠原黨殊ニ勇

ヲ顯シ丹波安次一歳十市藏時忠并康親カ兵都筑

助太夫重次岡田藤八山崎清四郎及小笠原清元



力士大嶽弥吉以下戦死ス康親カ銳兵石川善大  
夫昌隆深疵ヲ被ル小笠原信元切テ勵ト云々豆州  
戸倉ノ康親カ領知ニテ砦ヲ備ヘ家臣岡田竹右  
永門元次且援將服部半藏共ニ九十餘兵是ニ籠  
リ三嶋表ニ菊田ニ遣ス處ニ北條方ノ八重カマ  
リニ衆掛リ多ク討タル松平石見正廣後松平平岩  
七兵衆且星野氏父子甥以上五人踏止リテ功名  
ス味方是ニ氣ヲ得テ守リ返シケル處敵多ク重  
ル故星野馬引寄打衆ケルヲ其子ト甥モ又馬ニ  
乘ルヲ見テ如斯後ノ軍ニハ馬ノ頭ノ敵ノ方ニ

向テ乘ルモノナルソト辞ヲカケ敵既ニ間近ク  
進ニ来ル時馬ヨリ飛下リ之ヲ見習ヘトテ又馬  
引寄打衆ケル其間ニ若侍ヲ退カシメ其身ハ静  
カニ殿ス敵味方大ニ感シ星野味方ニ向テ我ハ  
逃ルノ上予ナリト戯ル此時康親カ組水沢水右  
朝臣ニ仕ヘ直ニ義直卿ノ臣トナル  
○神居ノ海賊豆州足城ヲ破リ敵多ク撃テ捕向井  
兵庫勝次ハ旗ヲ持タル敵ヲ討テ勇銳ヲ顯ハス  
○十四日 政臣書ヲ沼津ノ城ニ送ル  
河津色ニ越ヤ上ル要一院河津機嫌不及ル何方



幾ヶ所、合軍の修目、初夜候に、百餘と、此の  
 方、不慮に、放火、其の修目、破り、其の  
 名、不及、中、海賊、入、精、少、由、其、誠、以、我、お、お、  
 中、由、御、意、深、各、精、少、由、其、誠、以、我、お、お、  
 修、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、  
 今日、敵、陣、中、掛、り、お、お、お、お、お、お、  
 内、の、為、賊、軍、の、方、に、修、目、を、是、れ、生、捕、り、上、り、  
 お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、  
 今日、敵、退、し、り、其、の、方、に、修、目、を、是、れ、生、捕、り、上、り、  
 中、の、方、に、修、目、を、是、れ、生、捕、り、上、り、  
 中、の、方、に、修、目、を、是、れ、生、捕、り、上、り、

八月十日  
 阿部九  
 大孫八

本作九  
 天彰十

敵重、松平周防守、カ持分、豆州、戸倉ノ岩ヲ襲  
 三枚橋ヨリ防洲後詰メ北條方ヲ討走ラシメ  
 薙山ノ外郭木戸ノ邊ニ追撃ス首三十餘級ヲ得



此其後戸倉ヨリ周防守臣岡田行右末門ト加勢  
服部半藏督々薤山邊一軍ヲ出テ苜田働ヲ成ス  
富永源六郎等功ヲ顕シ後神君ノ御感ヲ蒙ル  
黄瀬川釜ノ段ニテ戦アリシ時関東ノ浪客反町  
大膳幸定北條勢ノ内ニ列シ徳川衆ハ騎ニ取  
篋ラル處ニ騎突落ス萩原新九末門来リ又一騎  
討止適レ帰ル氏政ヨリ幸定ヲ賞シ馳馬ヲ玉フ  
○十九日先達テ信州芦田小屋ニ於テ戦功ア  
ル甲陽ノ舊臣等ニ感牒ヲ賜テ辻弥兵末盛昌カ  
部下今井兵部首級ヲ得テ印章ヲ授ケラル

○廿六日今度於芦田敵討捕子祇蒙レ係御妙ニ至  
や承向後ノ抽教名もや仍如件

天正十年壬申

八月十九日 御朱印

今井兵部

○廿日神君古元御巡見諸將ノ功ヲ紀サレ鳥  
居彦右末門元忠ニ甲州都留郡ヲ授ク印章ヲ賜  
フ時ニ予カ共ナル處ニ非ス是全ク汝カ鎗先ヲ  
以テ取所永ク領掌スヘキ旨命セラル  
○是日辻盛昌カ部下甲斐源氏ノ度流甲府崔



明神ノ祠官加美七郎右衛門戦死ニ依テ其子

御朱印ヲ賜フ

今度於芦田親如ノ事七郎右衛門討死ノ事

至也然レ事未ダ拘置名田等神領諸領未ダ前

宛リテ仍ル件

天正十年

八月廿日 御朱印

加賀守伊藤辰

○廿六日 松平主殿ハ新府ノ塔ヲ守ラシメ

給フ

○廿七日 北條勢豆生田ノ塔ヲ築キ爰ニ據テ

田々以輕兵箱ヲ蒞取處新府ニ陣スル七將相議

メ大須賀カ謀者ニ拔群ノ者アリ渠ヲ初トメ各

間諜ヲ以テ敵陣ヲ窺ヒ敵豆生田ノ塔ニ在ル

ヲ聞テ此旨上聞ニ達ス爰ニ於テ神居明日

御出馬敵ノ動靜ヲ監ニ玉ハニ由命アリ

○廿八日 神居豆生田表へ御動座新府ノ七將

ヨリ輕卒ヲ撰ニ出シ是ヲ進メテ蒞田スル敵兵

ヲ撃走ラシメ北條方暫ク戦テ塔ニ引入此時大

須賀カ隊ヨリ坂部三十郎先登メ勇ヲ揮フ

稲垣彦六



證人トノ 神原カ隊ヨリ原田権左衛門群ニ抽テ  
言上ス 神原カ隊ヨリ原田権左衛門群ニ抽テ  
鎧ヲ合ス 神原カ隊ヨリ原田権左衛門群ニ抽テ  
接ル旨御感不斜且新府ノ七将ヲ以テ岩へ附入  
ニスヘキ由命セラル各競ニ進ム就中大湊賀カ  
部下久世三四郎廣宣ハ敵ノ火炮烈シト云ヘ  
進シテ土居ニ騰ル城兵八人此處ニテ防キ戦フ  
廣宣頻リニ鎧ヲ以テ薙拂ケルカ敵野中六右衛  
門久世カ鎧ヲ打落シ顔額等ニ疵ツク廣宣土居  
ヨリ下へ落ナカラ野中カ鎧ノ柄ヲ片手ニ握リ  
右ノ手ニカヲ拔テ見テ野中鎧ヲ奪テ退ク時ニ

土屋陰ヨリ發スル火炮三四郎カ腋ノ下ヲカス  
リ後ニ扣シ久代某カ腰ヲ打貫テ又敵進ニ来ル  
廣宣ハ野中カ鎧ヲ取其敵ニ突倒メ首ヲ得  
ントスル處ニ敵起上ル廣宣両眼ニ血入テ其鮮  
ヲ見ルヲ得ス又敵一人久世ヲ目懸テ馳来リ  
シヲ兎角ノ眼ヲ開キ其敵ヲ鎧付テ両眼ヲ拭ニ  
遂ニ首ヲ得タリ久松某管治兵藏等ノ大湊賀カ  
銃士奮ニ戦フ木内忠左衛門蕃正服部和泉正吉  
櫻井仁兵衛久忠ト林理右衛門守吉大久保喜六  
郎忠豊依田肥前信政大久保荒之助忠直石原孫



太重宗搦手ヨリ攻入功ヲ竭メ遂ニ豆生田ノ砦  
ヲ攻陥ス軍終テ大久保治右衛門忠佐ハ久世三  
四郎ヲ抱テ神君ニ謁セシムル處疵茶ヲ御  
手自廣宣カ疵ニ附サセ玉ヒ父祖ノ功業ヲ仰セ  
アリテ渠カ今日ノ勇銳ヲ稱美シ玉フ且小林昌  
琳モ古テ廣宣カ疵ニテ鼻ノ落サシマウニ医療  
ヲ盡スヘキ旨命セラレシムル事也  
○廿九日 松平主殿助新府ノ砦ヨリ兵ヲ進メ  
テ敵ヲ壓ヘ輕卒ヲ以テ薊田セシムル事也  
○頃日 大久保七郎右衛門忠世信州佐久郡小

沢山ノ城ヲ攻ル平原善真同五郎兵衛功ヲ勵ス  
此兩人ヲ始トシ望月印月奇知久典左衛門平尾  
平藏大井民部小山田六左衛門信有ヲ始信甲ノ  
先方ノ士今月ヨリ来秋ニ至テ忠戦ヲ盡スト云  
○北條弓相木入道カ佐久郡相木ノ城明退ク處  
ニ平原五郎兵衛追蒐首一級ヲ得タリ大久保忠  
世始ハ野沢ノ城ニ在テ小諸ノ城根津小屋望月  
ノ城穴小屋内山ノ城岩尾ノ城耳取ノ城平原ノ  
城田野口ノ小屋岩村田ノ城海野口ノ城平尾ノ  
小屋荒手ノ小屋等十二三箇処アル其中路ニ兵



ヲ押入敵ノ間ヲ隔テ或ハ攻或ハ調畧ノ隙サシ  
下ノ惣ノ頃年小屋ト云フハ  
檢揚搆ノ屋敷ノ事ナリ

○吾兵信州佐久郡宍崎ニ闕ヒ北條方ヲ百九十  
三人撃取就中増上豊前ハ内田加賀カ首ヲ得ル  
海野市ハ氏直ノ監使芳賀四郎右衛門カ首ヲ  
得テ後日神君ヨリ盛家ノカヲ賜フ津金監物  
弟修理今池筑前米倉主計折井市左衛門等會合  
群議ヲ凝シ板橋ノ嶮ヲ取敷上道十五里敵地ノ  
勝間カ反ニ砦ヲ設ケ交替メ守衛ニ佐久郡一揆  
ノ城砦ヲ拔ヘキ旨注進ス甲州江草ノ小屋ヲ伊

賀ノ忰士夜掛メ之ヲ落サシトス甲州先方ノ士  
北條方必ス後誥セシト察シテ伏兵ト成ル邊ニ  
伊賀ノ忰士彼小屋ヲ乘取ル処果メ北條方三千  
許馳来ル甲州先方ノ士是ヲ討テ四百七十八人  
ヲ殺ス伊賀ノ忰士等殊ニ御感ヲ蒙ル  
○北條氏直先日巨摩郡武川ノ諸士ヲ招クト云  
ヘトモ是ニ應セス氏直再ニ書簡ヲ遣ス中沢維  
殿右衛門同新右衛門氏直ニ隨ヒ是ヲ謀ル所云  
ヘル武川ノ士米倉左大夫丹後重綱伊藤新五郎  
早速両中沢ヲ斬テ其首級ヲ氏直ノ書簡ニ添テ



神君ニ獻ス其後逸見日野村ノ臺花水坂ニ武  
川ノ士敵ト戦フ山高岩内信直柳沢兵部信俊等  
首級ヲ得テ新府ニ獻ス此忠義ヲ以テ遂ニ武川  
衆ニ本領ヲ賜フ

○是月 神君駿州田中ノ城并山西ノ地ヲ高カ  
共左衛門清長ニ宛行ルト云

九月大

○朔日 氏直ノ大存候味方ノ陣ニ来リ伺フ酒  
井忠次カ一隊馳向ヒ是ヲ追撃シ  
○九日 嚮ニ服部半藏正成組ノ伊賀ノ士信州

江草ノ小屋ヲ採取刻甲州ノ士小尾監物祐光同  
彦五郎津金修理進胤久郷導ニ且伏ヲ設テ此條  
家ノ後援ヲ撃テ功ナリ殊ニ祐光ハ疾ヲ被フル  
ヲ以テ本領加恩共ニ都合七百五十貫ノ地ヲ監  
物ニ賜リ五百貫ノ地ヲ修理進ニ與ヘラル此事  
阿部善九郎正勝山本帯刀成氏はヲ沙汰シ且氏  
家十軒ノ公役ヲ免許セラレ但シ此恩祿ノ内ヲ  
以テ輕率呂抱ヘキ由 命セラル  
○十日 高木廣正ヲ使節トシ勢州ニ赴カシメ  
北畠中将信雄郷ノ近臣ヲテ尊簡ヲ贈リ玉フ







ス下ヲ得サラン要地也即時伊賀ノ士之  
ヲ抜ケテ神君御感淺カラス近國皆驚歎大此  
後薙山ノ敵徒屢三枚橋ノ城邊ニ發ス吾兵奮  
戦不毎般勝ニ乘ル之ニ因テ道カ猛將ノ北條氏  
規兵氣甚ク衰ト云

○頃日甲陽先方ハ加藤丹後ノ北條方武州  
寶峯八城ニ夜襲ニ内藤周防ヲ擊捕相州築井ノ  
城ヘモ甲陽先方ハ士夜蒐シ番午内藤大和秋宣  
カ兵ヲ打取テ各恙ナク歸ルト云駿州深沢筋  
ニテ小山田彈正今井九兵衛勝利駒井右京昌直

足柄ヲ越テ松田尾張憲秀カ陣ヘ四ヶ度夜討シ  
ケレハ憲秀陣城ヲ構ヘ用心嚴シクセシカ氏又  
四ヶ度夜襲メ勝利ヲ得ル如斯所ニテ甲州先  
方ノ士切ヲ勵ム云  
○神君新有ハ御陣營ヨリ御使ヲ當時北條氏直  
方ト成リケル信州小縣ノ郡上田ノ城主真田安  
房守方ヘ遣シ味方ニ招カシ處ニ真田生得多慾  
ニ大利ニ趨リケレハ領邑加恩アラハ幕下ニ屬  
セシト答フ則大久保忠世密告ヲ蒙リ神君ハ  
尊簡ヲ得テ杉浦久藏ニ持セ忍ビテ真田カ許シ



送りケレハ安房守父子味方ト成リ依田ト共ニ  
御誕ニ依テ碓日峠ニ關ヲ設ケ氏直ノ糧道ヲ斷  
ト云ハ

○信州ノ浪士保科越前正直嚮ニ氏直ニ隨テ伊  
奈郡ニ還任シ高遠ノ城ニ拠トテ酒井忠次  
ヲ以テ神居ニ通シ故小笠原長時姉婿藤次頼  
親ヲ味方ニ勸ムルトイハテ許容セテ正直即チ  
頼親カ同郡箕輪ノ城ヲ圍ニ攻ル事三日ニ在之  
ヲ陥ルト云ハ

○十九日 神居ノ命ニ依テ大久保成瀬ヨリ先

月中麻木ニ於テ戦死スル曾根平大夫カ子松平  
代ニ父カ遺跡ヲ賜ル旨ヲ沙汰ス

甲辰首根城内分善照寺善念ノ口松平文後臣  
改智慈照寺分ノ内松平文後思田之福臣  
等ニシテ右又平太夫松平文後死ニ係ル事不  
レ知テ有テお邊ニ去也仍如件

九月十九日

成瀬吉右衛門  
一好

○廿一日 神居ノ命ニ依テ大久保成瀬ヨリ先



○廿一日 信州伊奈郡高遠ノ城主保科越前守  
正直ヨリ先臣二人ヲ使節トシ 神君ニ屬セシ  
由ヲ達ス其外小笠原掃部助信嶺松岡刑部晴近  
衆ト称スル故秋山ノ屬士及波部衆知久座光寺  
ニ味方ト成ル依之當八月甲州先方ノ士ヲ以テ  
攻ラル 信州芦田小屋ヲ急ニ攻拔ヘキ旨ニテ曾  
根下野正清百二十騎岡部次郎右衛門正綱三十  
騎共頭植松弥藏持弥七郎ト岡部ヲ寄手ノ援  
兵トメ是ヲ遣シ玉フ時ニ今福求馬三井十右衛  
門河窪新十郎信正其外故武田信勝ノ兎扈從未

夕戰場ニ臨マサル輩戦ヲ見習フヘシトテ彼援  
勢ニ加ヘラル 此勢甲陽巨摩郡武川ヨリ臺カ原  
ヲ歴テ信州梶カ原役行者ノ嶺ヲ歴テ芦田ノ小  
屋ニ赴クヘシト云々

○廿五日 先達テ東條ノ松平甚太郎家忠卒去  
ノ後公子次丸君ヲ遺跡ト定メラル 今日遂ニ駿  
州三枚橋ノ城ニ移リ玉ハ未タ幼年ニ兼テ東  
條ノ縁族松平周防守在城ニシテ弥後見メ東條  
家ノ兵ヲ指揮ス次男小後下野守  
○是日 芦田小屋寄手加勢被地ニ着シ其夜



ヨリ迫合天始毎日二三度宛ノ蒐合ニ各功大竭  
不殊ニ横田甚五郎ハ敵ヲ殲シ妹婿ノ日向傳  
次郎ニ首ヲ得サシム余福三井互武威ヲ争テ  
各馳合スルニ五ヶ度兩人横田ノ馬上ヨリ鎧付  
ル敵二人ヲ首ヲ得テ歸ル

○松平周防守康親且小笠原黨カ銳武ニ依テ薙  
山ノ敵徒甚ク恐懼ノ此間三枚橋ノ城ニ近付ク  
事ヲ得ス神君康親ヲ賞シ御紋ノ旗ヲ賜フ加

恩セラレ駿州富士郡ニテ千石宛ナリ

○本多彦八郎忠次カ養子時二十歳御前ニ於テ

元服ス御諱字ヲ賜リ康俊ト稱ス後縫殿助ニ  
任ス實ハ酒井元忠門尉忠次カ二男ナリ

○今秋神君松平備後守清宗カ連年ノ功ヲ感

セラレ取来ル参州竹谷ノ本領ヲ其子玄蕃頭家

清ニ賜ル別ニ清宗ニ二千貫ノ地ヲ駿州ニ於テ

賜リ駿州長窪ノ真国寺ノ城ヲ守セラレ

○木村三右衛門吉清ニ男伊勢千代元政時十三歳

昵近ノ臣ト成ル後故源太郎御小姓且御目付ヲ兼役ス

○十月大

○三日ノ往日諸卿會議ノ上羽柴秀吉ハ信長



討ヲ関テ不日ニ旌ヲ旋シ諸將ヲ督メ山崎ニ戦  
ヒ賊臣光秀ヲ討テ其族ヲ殲ス何シノ其忠功ヲ  
賞セテリサランヤトテ從四位下ニ叙シ左近衛  
推中將ニ任スヘシトニ編命アリシ處秀吉固ク  
辭退ス然レモ今日從五位下左少將ニ任セラレ

○去六月二日信長父子上洛ニ処ニ明智日向ヲ  
企逆高討果シ利礼入二條ニ御所移籍ス  
○今存子子代末守等是非以事ヤ物交秀吉西國  
為征敗值中五敵城所ニ召卷能對陳後乃合  
○天正十年不移時日池上明智一教惠珠代唐天下蓋平

之既寔古今希有ニ武勇何事也之因茲存位  
之後院有之皇下被禱中ニ系重自昇殿叙爵  
女將ニ委咄 天氣少也仍執事如件  
天正十年十月二日 左中納言 藤原  
羽柴能為之殿 宣案  
○上卿 將軍 甘露寺 天納言 宣旨  
天正十年十月三日 宣旨  
宣令任左近衛權少將



藏人頭左近衛權中將藤原慶親奉

○秀吉微賊ニ人性氏ナシ始平姓ト称シ又

藤原ト改メ遂ニ豊臣ノ姓ヲ賜フ

○六日 甲陽御嶽ヲ城衛トシテ新府在陣ノ諸

將ヨリ輕卒一人宛遣ス

○八日 阿州仁宇山ノ奥茨岡ニテ細川掃部介

真之ヲ其臣江彦治部奉木新丸弟門江村右兵衛

露口兵庫等ノ賊徒是ヲ攻ルテ急ニ真之自殺

ス是ハ細川刑部大輔頼春ヨリ十四代讃岐守持

隆カ子ナリ是ニ於テ四國ノ細川永ク新絶ス月

阿州勝端ノ城ヲ十河民部大夫存保ヨリ長曾我  
部王佐守元親ニ避渡シ没落シテ三好家モ亦阿  
州ニ織ル

○廿一日 信州ノ宇客望月源五郎カ守ル處ノ

佐久郡望月ノ城ヲ味方甲信先方ノ士是ヲ拔ク

城將逐電ス金井原兵十郎ヲ味方横田甚五郎是

ヲ討取ル若ラハ甲州先方ノ

○廿四日 保科越前守正宣高遠ノ城ニ在テ信

州ノ士民ヲ諭シ多ク味方ト成ル由酒井忠次

言上ス神后伊奈郡ヲ宛行レ御直筆ノ印章

ヲ保科ニ賜フ



今度判尚表可有右位<sub>下</sub>河井左衛門尉披露  
言上御心秘妙<sub>云々</sub>之<sub>云々</sub>子建於<sub>云々</sub>如<sub>云々</sub>保家<sub>云々</sub>中<sub>云々</sub>の<sub>云々</sub>  
事<sub>云々</sub>不<sub>云々</sub>之<sub>云々</sub>お違<sub>云々</sub>の<sub>云々</sub>意<sub>云々</sub>の<sub>云々</sub>以<sub>云々</sub>る<sub>云々</sub>う<sub>云々</sub>の<sub>云々</sub>御<sub>云々</sub>軍<sub>云々</sub>を<sub>云々</sub>

○女状の件 北條氏直其國勝ツトテ能ハス殊ニ

天正十年十月廿四日 家康

保科越前守殿

爰ニ於テ北條怒リテ越前守正直カ最前質ト人  
出セシ其妻子ヲ殺害スルユハ松平興次郎忠吉  
カ後室 神君ノ御妹多知ノ御方ヲ後日正直ニ

再ニ嫁セラルト云々

○廿六日 北條方信州佐久郡芦田ノ小屋ヲ八  
月以來吾兵頻リニ攻テ今日是ヲ陥レ先方ノ士  
相守ル處糧米ナクシテ牛ヲ殺シ食セントス時  
ニ真田安房守米穀ヲ送リケレバ城兵大ニ歡フ  
○廿九日 北條氏直其國勝ツトテ能ハス殊ニ  
糧道ヲ断タレ術ヲ失ナレ美濃守氏規ヲ以テ  
神君ノ味方真田カ伐取ル上州沼田三万石ノ地  
ヲ以テ氏直ニ屬スル甲州都苗郡信州佐久郡ニ  
替テ上州ハ一圓ニ氏直是ヲ領シ甲信兩國ハ



神君ノ御分國トシテ且神君ノ姫君ヲ賜ハリ  
氏直ハ室ト成スヘキ由此間願望アリテ質入ト  
シテ大道寺孫九郎直政山角集ヲ献スヘシト云  
神君モ是ヲ許容シ玉ヒ是ヲ以テ酒井小丸即ヲ  
質トシテ送ラルヘキ旨ヲ答ヘ玉フエヘ兩陣各干  
戈ヲ止ス万歳ヲ唱フ然レト北條家ノ弓矢詭道  
武徳ニハ猶害心止スト云  
○頃日神君ノ命ヲ蒙リテ甲信ノ味方既ニ  
信州筑摩ノ川上佐久郡岩村田牧沢ノ城ヲ攻ル  
トイハレ利非スシテ兵ヲ擧ル處ニ城兵討出テ

是ヲ慕フ依田右衛門佐信蕃一族殿シテ三百餘  
人ヲ討取敵ヲ追退ク是ニ依テ右衛門佐信蕃且  
弟善太郎信春源八郎信則及役士依田豊後同右  
近同主膳與平金弥ニ御感状ヲ賜フ神君大久  
保忠世及折井市左衛門次昌推田織部泰長ノ諏  
訪ニ至ラシメ嚮ニ酒井忠次カ速ル如クニハア  
ラス最初忠世ヲ以テ命アル如ク直ニ勤功ヲ  
励スヘキ旨ヲ諭サレ頼忠之ヲ兼服ス則家役ヲ  
茅野丹波房清沢市左衛門房重ヲ甲府ノ御陣  
ニ遣メ遺命ノ實ヲ伺フ神君兩士ヲ御前



二曰天御誓紙ヲ賜ハリ茅野ニ暑衣沢ニ胴服ヲ授ケラレ弥頼忠幕下ニ属スヘキ旨 鈞命アリ  
兩人諏訪ニ歸テ頼忠ニ告ル處頼忠其子頼水ヲ携ヘ新府ニ御陣ニ至リ尊顔ヲ謁スル處ニ保昌五郎ノ脇指ヲ頼忠ニ與ヘテ信州ノ内未夕麾下ニ属セサル地ノ早夕在所ニ歸リ命ノ至ルヲ待テ重テ令テ下スヘシトテ御暇賜リテ諏訪ニ歸ル  
○高木善次郎清秀 六郎九郎門宣光カニ男 尾州ニ寓居ス是人水野下野守信元カ家ニ於テ精銳ノ士父ルニ

今度 神君同名九助廣正ヲ以テ招カセ玉フ則清秀其弟甚太郎清方且清秀カ二男内膳一吉三男善次郎正次下共ニ新府ノ御陣營ニ來リ謁テ執事清秀信州伊奈郡ニ於テ千石ヲ賜ス後主水正任テ其二男一言後志摩守ニ任シ三男正次後主水正任テ清秀カ弟清方ハ天正十元辛卯相州ノ内五百六十石ヲ賜テ清方カ子孫左衛門清政ハ後弟弟太田甚九郎先年長篠於テ戦死シ其子トク家断絶セシメ後年秀左衛門彼家ヲ継シ相州ノ内四百十一石ヲ賜フ



太田彦左衛門ト称ス信政弟甚右衛門清久

○去月以來保刑部大輔一揆元起

州少縣郡前山ノ城ヲ管治大膳亮定利柴田七九

郎康忠依田右衛門佐信蕃一甲信先方ノ士ヲ添

テ攻セ如ク城兵度ノ突出合戦ノ味方一宮終

理松波並父鎗ノ合戦兩宮故十兵衛家次ノ子ノ

平兵衛市川内膳清成土屋三郎右衛門鎗下ノ功

名正リ山中主水奉行ノ幡藤五郎昌忠前際或ハ

守門先登シ小尾監物小池筑前等働アリ敵高防

キ守ルト云

○穴山陸奥入道梅雪當六月城州草内村ニ於テ

命ヲ失ヒ其子勝千代信治ノ神君ニ謁シ駿州江

尻ノ城ヲ守ル處ニ幾程ナク早世シケレハ先達

テ其家断絶シ家臣皆御家人ニ列ス

○江尻ノ城ヲハ本多作左衛門重次當時是ヲ相

守ル

十一月小

○神君ノ北條和融ニ依テ氏直野邊山ノ陣ヲ退

シトス平澤ノ朝日山ニ砦ヲ築カシム

神君怒



ラセ玉ニ予既ニ武威ヲ以テ信甲ヲ從ヘ上州ヲ  
退治セシト欲スル處ニ氏直和ヲ乞フ昔年北條  
氏規ト駿府ニテ交會セシ舊好ヲ以テ無擾望ニ  
應シ上州ヲ渡スヘキ由ノ約ヲ成ヌ姻家ト成シ  
ト盟ス然ル處吾伐治ル甲陽ノ内朝日山ニ城築  
ル企表裏顯然タリ此上ハ有無ハ一戦ヲ決スヘ  
キ旨朝比奈弥太郎恭成ヲ以テ釣命アリ既ニ  
平沢ヨリ信州ノ方ヘ北條勢入乱レシ中ヘ恭成  
馬ヲ乘入テ此趣ヲ達ス時ニ吾兵大湏賀神原奔  
多廣高カ三隊若御子ヘ押上左ノ方ニ一奮酒井

忠次カ相備松平主殿助ニ番石川敷正カ相備酒  
井典四郎三番本多忠勝カ相備敵上野ノ國先方  
ノ陣ニ向テ一隊コトニ介候ヲ出シ若御子ヨリ  
長坂邊ヲ取敷氏直ノ應答擬滞セハ忽チ取蒐ヘ  
キ形勢ニハ神原ノ御旗本ハ新府ニ恭然トメ  
死シ玉ノ北條方ハ八箇楯ノ木立ヘ入込大軍乱  
レテ戦フヘキ術ナケレハ大ニ恐レ早ニ質人大  
道寺山角カ子ヲ氏規携ヘ朝比奈恭成ト共ニ新  
府ノ城ニ往テ神原康政ニ據テ陣謝ス神原則  
人質ヲ鳥居彦右衛門ニ預テ置レ郡内ノ勝山村



ニ禁錮シ是ヨリ酒井小五郎ヲ質トメ送テレケ  
レハ氏直早ク陣拂シ信州佐久郡ヨリ碓氷峠ヲ  
歴テ上野ノ地ニ入リ酒井小五郎ヲ歸ス爰ニ於  
テ北條家ノ兩質子ヲ郡内ヨリ足柄通リ相州へ  
返シ玉フ

○四日 神居甲州先方公士ニ命メ姥口山砦  
ノ要害ヲ修セシメ玉フ 十二月七日 其功成レリ

○五日 向松平主殿助新善光寺表ニ發向ス是昨  
日 仰テ蒙ル處アリ

○七日 主殿助家忠佐久郡勝間カ反ノ砦修築

スヘキ 命ヲ蒙ル

○又柴田七九郎康忠ヲ部將トシ 依田カ兵ヲ魁

首トメ今日伴刑部カ佐久郡前山ノ城ヲ攻抜テ  
城主ヲハ石黒ハ兵未討取刑部ハ小笠原ノ庶流

ニメ教代刑部ト称シ弓馬ノ譽アリ此時家亡テ  
其得ヲ失フ右ノ寄手高棚小田井ノ城ヲモ攻テ

是ヲ降ス信州衆平原善真其孫五郎兵未盛繁ヲ  
携ヘ小田井ノ攻手ニ加ハリ 功ヲ勵ス盛繁ハ元

龜三幸未十一月遠州二股ニ於テ勝頼ノ臣トメ  
命ヲ殞セシ平原右近昌忠カ子ナリ



○九日 神君ヨリ辻弥兵衛盛昌カ組今井カ芦田小屋ニ於テ功アルヲ賞シ舊領ヲ還附セラレ印章ヲ賜フ

甲辰ノ内今井武敏ノ黄八百七拾文條ノ事  
存爲修名本領得替成學有之ハ其邊住修名  
印意ノ時名如前ノ令還補ノ快如件

天正十年十一月九日 所第印

○十一日 甲陽ノ舊臣日向半兵衛正成御家人ニ列ス嚮ニ叔父日向大和昌時ヲ召出サレ甲州

竹居村ヲ賜フ

○是月 織田信雄并羽柴秀吉ヨリ織田三七信孝ヲ攻襲ハシム蓋シ信雄信孝異腹ニメ同年同月ニ誕生シ互ニ嫡庶ノ分明ナラサルヨリ信孝確執ヲ起シ越前ノ柴田勝家越中ノ佐々成政ヲ詰ラヒ自立ノ企頻リニシテ勢州神戸ノ城ニ小嶋兵部丞輔嶺ノ越ニ岡本太郎丸門鹿伏免ニ加太左京國府ニ國府四郎次郎龜山ニ関兵部少輔父子ニ箆置濃州岐阜ノ城ニ在城シテ時ヲ伺フ處ニ羽柴秀吉謀ヲ廻シ越前能登越中ハ雪國



○天正五年冬ヨリ季春マテ、間兵馬ヲ動スル叶ハズ  
ト推察シ舟羽池田細川以下五万余兵ヲ以テ俄  
ニ岐阜石城ヲ撃シ以テ爰ニ於テ信孝分國ハ驍將  
稻葉一鉄民家行廣等兼テ異心ヲ挟ムニ忽チ  
寄手ニ降りケレハ信孝防戦スルニ堪ス其母幼  
息子元卷ノ妻子ヲ秀吉ニ送り和ヲ整フト云々  
○是下ノ由新取テ...

國朝大業廣記卷之四十二

天正十年午年

十二月大

○三日、甲辰ニ於テ松平主殿分陣營ヲ燒口ニ  
移ス是日辻盛昌カ部下依田氏ニ領知ノ印章ヲ  
賜フ

○甲辰市川中斷ノ由篠尾分テ指貫文アリ

見海三百貫文ノ事

右ノ事依テ...



天正十年十二月三日 御朱印

依田三守右馬殿

○九日 辻盛昌ニ重テ印章ヲ授ケラレ

甲州岩崎ニ因長定守公（公）控或豊文日新（日）

小山田伊豆守（守）又安光寺（寺）

才夫（夫）

右申給ニ據替久段不効形不効以不効ニ遠ニ  
如件 天正十年十二月九日

天正十年十二月九日 御朱印

辻盛昌殿

○十一日 神居古府ニ此コラレ参遠ノ諸將歸

國ノ暇ヲ賜（賜）府（府）ヲ奈ス柴田修理亮勝家（亮）ノ使節

来テ唐織二十端錦百把鯉五尾ヲ獻ス是甲信ノ

兩國平均ヲ賀スル所ニ信品小縣郡上田ノ城

主真田安房守昌幸神居へノ忠ト称シ軍ヲ起

シ今月ヨリ来歳ニ至テ信濃ノ堺目上州ノ城若

ハケ所ヲ攻抜シメ功ヲ励ス

○頃日 甲信ノ先方ノ士ヲ甲陽古府ニ召テ拜

謁ヲ遂カセ忠ノ輕重ヲ紀サレ或ハ全ク奉領ヲ

賜ニ或ハ舊知ヲ減セラレ平原宮内（依田一族ノ所領）



安堵スヘテ所ニ往日笛吹川一戦ノ時一揆ノ長  
大村三右衛門カ後黨タル旨保坂金右衛門并田  
村ノ郷民是ヲ訴フ故兩國ノ士拜謁ヲ遂ル席ニ  
御前ニ於テ訴人ト平原ト對決ツ命セラル平  
原逆意ナキ由陳謝メ退出スル所ニ其甲乙未刻  
ノ事アリテ再ニ弘問セラルヘシトテ是ヲ呼返  
サレ平原ニ限ラズ群衆ノ先方ノ士長袴ヲ着シ  
短カヲ帶シ大カヲハ僕從ニ持セ置ケルカ平原  
元來野心ヲ含メルニ其露頭スル歎ト疑ヲ  
生シケルニマ奥山新八郎カ童主人ノカヲ携ヘ

蹲踞シケル所平原忽チカヲ奪ヒ取テ其僕童ヲ斬殺  
シ真驀ニ御前ニ馳入時甲陽ノ小幡藤五郎昌  
忠辻弥兵衛盛昌臺子ノ間ニ誥メ合セケルカ西  
人平原ニ向ヒ藤五郎短カヲ抜ナカテ平原カ切  
付ルカヲ請留左ノ手ハ指四ツ擊落サル繼テ辻  
弥兵衛短カヲ鞘ニ翳サシ飛入ニトシテ頻ニ  
疵ヲ蒙ル其血流レ目ニ入テ途方ヲ失フ時ニ甲  
信ノ士長袴ヲ着シ進退報スカラスノ手負死人  
二十七人ニ及ヘリ宮内既ニ御前ニ近付ク所  
土屋権右衛門昌為忽チ雨戸ヲ引テ是ヲ隔ル冬



州衆永見新右衛門重頼傍ナル鎗ヲ執ケルカ平  
原透間ナク進ミ来ユヘ永見モ鎗ヲ取直シ隙  
ナク石突ヲ以テ宮内ヲ突倒セハ神原康政カ部  
下伊藤雁助平原ヲ組留ル時ニ脇ヨリ宮内ヲ斬  
トテ誤リテ其カ雁助ニ中ル燕癱ニ成テ後日ニ  
雁助死セリ  
辻弥兵衛漸ク眼開キ平原カ刀ヲ抑ヘ取逐ニ宮  
内誅セラレハ神居永見土屋カ働ヲ感セラレ小  
幡カ深疵ヲ憐ミテ丸山万太郎山本大琳西醫ヲ  
附置レ療養ヲ遂ラル且佐橋甚五郎御使トシ度  
小幡カ陣營ニ赴ク藤五郎時ニ十九歳日ヲ歴

テ疾平愈シ後又兵衛ト改ム且辻弥兵衛心ハ剛  
ナリトイヘ死白及ヲ揮フ敵ニ空手ニ均シキ體  
ニテ卒尔ニ馳向創ヲ被フル御旨ニ應セス當  
三月神居ハハ八百貫ノ約ヲ成シ仕ヘ奉ル  
且義ニ叛ケリ其上織田信忠ハモ勝頼ヲ討テ出  
スヘキ由ニテ三百貫ノ約ヲ成セシ卷説ニ有リ  
シカハ綿衣一襲黄金一枚辻ニ賜ハリ御賞愛  
甚ク薄シト云々

○或云平原カ狼籍ハ當九月新府ニ假屋ヲ設  
テ甲信先方ノ士拜謁ヲ許サレシ時也云々



リ又ハ此時弥兵衛改易セラルト云々皆非也

○十九日 神居ノ御使朝比奈弥太郎泰氏後弥惣太

系門 小田原ニ至ル是ハ當月上旬北條氏直ヨリ

結納トシテ濱松姫君ハ石巻隼人川尻下野守ヲ

以テ十種十荷ヲ送ルソノ礼ヲ酬ヒ玉フ氏政氏

直朝比奈ヲ饗シ長刀駿蹄ヲ授ク

○此一件北條家ノ説也此時 神居未夕甲品

ノ御陣營ニ滞留セラル其御留守ハ北條カ両

使泰向シ結納ノ酒肴ヲ捧クル者歟

○岡野家傳ニ坂部岡江雪奇氏直ノ使者トシ

テ濱松ノ城ニ至リ納采ノ日ヲ定ム

神居ノ

使節小田原ニ来ル時江雪必ス氏直一披露シ饗應

等ヲ沙汰スト云々江雪奇後年坂部岡ヲ改メ岡

野ト称ス是 神居ノ 命ニ依テニ

○二十一日 神居甲信ハノ命ヲ下シ玉ヒ古府ヨ

リ御凱旋アリ先達テ軍功ノ將ニ御感状ヲ賜フ

大久保忠世三通ノ内ニ通兩度一番鎧ノ功也 島居元忠

一同從者一通 三宅康貞通 是ヲ初甲信先方ノ將卒

餘多拜戴ス平岩七之助甲品ノ藩鎮ト成リテ来

邑若干ヲ賜フ成瀬吉右系門日下部兵右系門ヲ



檢断職トシ根来徒同心五十人ヲ成瀬ニ附興フ  
リテ先方ノ士小濱民部左衛門景隆間宮造酒丞  
信高是ニ副フ又櫻井安藝信忠市川伊清斎工藤  
元隨奇岩間大藏左衛門小田切大隅豊嶋作左衛  
門正吉ヲ以テ國中ノ巷説ヲ例テ注進スヘキ旨  
ヲ諭サル渡部善三郎ハ甲陽ハ町司トシテ信高  
マテノ盗賊ヲ改メ糾シ公田ノ租税ヲ掌リ徒同心  
五十人ヲ屬セラル其子弥兵衛ニ至テ姦盗ヲ糾  
断スト云々信高藩鎮トシテ佐久郡ヲ大久保七  
郎右衛門ニ宛行ル柴田七九郎菅沼小大膳ニ采

邑ヲ賜リ相副ラル

○是日 朝比奈弥太郎小田原ヲ發スト云々

○俗ノ怪談ニ弥太郎カ歸浴箱根ノ日金峠ニ

於テ黄昏ニ鬼ニ逢ト云フハ今日彼山ニテ聊カ  
疑フヘキトアリシヨリ妄説ヲ發スト云々

○保科家傳ニ曰越前守正直カ子甚四郎正光

駿府ノ城ニ登テ始テ 神居ニ拜謁ス

○神居ノ電臣井伊兵部直改弱年トイヘトモ英

雄ノ蓋アルヲ以テ先山縣 昌景原胤廣一條信龍

土屋昌恒カ舊士ノ内精銳ノ誉アル族七十四



人關東ノ浪客勇名ノ関ヘアル者四十三人彼是  
總テ百十七人ヲ直政カ同心ト成シ其食邑四万  
石ヲ賜フ故山縣三郎兵衛ノ上品ノ先方小幡上  
総々々備大旗小旗六具ノ色鞍鎧ニテ赤色ナリ彼  
英武ニアヤカルヘキタメ直政カ備悉赤色タル  
ヘシ其内ニ廣瀬左馬助三科肥前兩人ハ信玄ノ  
時ヨリ武邊場數ノ譽隠レ無キ捺物ナレハ赤備  
ノ内ニ廣瀬ハ白キ纒張三科ハ金ノ輪抜ヲ元ノ  
如ク是ヲ用ニ益譽ヲ顯スヘキ旨 命アリ鳥山  
縣カ役士石原主膳孕石備前ニ廣瀬三科トトモ

ニ 神君ノ 御前ニ召出サル今度汝等カ武方  
鍛練故ニ十二歳ノ直政カ輔臣トスル上ハ心底  
ヲ殘サズ軍旅ノ道甲信并越後家ニ於テ惡シキ  
ヲ棄テ善キヲ取干戈起ラサル時兵道ヲ定置内  
習ヲ詳カニシ百餘人ノ勇士志シテ一致ニシテ  
直政ヲ以テ英將ト成スヘキ旨 命セラレ 御  
前ニ於テ金おシテ誓盟ヲ成サシメラル

○或曰翌年正月十一日ヨリ二月二十八日マテ  
廣瀬三科石原孕石毎日會合シ軍旅ノ一冊ヲ  
調進シケレハ 神君御覽アリテ所々是ヲ改



メ直サレ 御印章ヲ成シテ即直政ニ賜ハリ  
又一通宛附属ノ士大将ニ是ヲ下シ賜フト云  
ニ直政英將タルノミニ非ス夙夜心ヲ小キニ  
メ忠誠ヲ励シ人ニ交ルニ敬ヲ厚クシ士ヲ愛  
メ寸功ヲモ忘レス一分ヲモ棄ス遂ニ 御當  
家創業第一ノ臣ト成リヌ  
○麾下ニ奉仕スル甲陽ノ士向後軍忠ヲ竭スハ  
キ昔遠昺秋葉山ニ於テ成瀬日下部ヲ以テ起請  
文ヲ書シメ玉フ所謂連署ノ族ハ

○今福新右衛門曾根下野正清助并右京昌直青沼助

兵部小菅又八郎三枝松監物跡部九郎左衛門河  
窪新十郎信正下曾根源六郎信辰跡部民部正秀  
油川刑部大井監物岩井助九郎油川弥平治柔原  
日向三枝松平右衛門

以上是ヲ武田親族衆ト云フ

○長沢佐左衛門竹居郷右衛門窪田弥平左衛門  
白沢傳兵衛天川平次郎今井弥四郎

○以上是ヲ二十人頭衆ト云フ

○原三左衛門山本源三郎跡部源左衛門高室清  
三郎米倉造酒屋同姓半兵衛牛奥織部星野神太



郎平林藤助山中主水

○以上是ノ近習ノ衆ト云フ

○土屋三郎左系門岩間將監窪惣右系門尉小宮

山又七郎昌親窪嶋平五郎有賀式部旋行高林又

十郎昌重須田典一市川内膳清成石原孫八郎飯室

庄左系門同姓典左系門河西孫左系門慶秀肥後満秀

彌三田大藏御手洗辰十郎横池弥兵衛元貞後二太左

系横地喜三郎元次後二系門内藤織部内藤采女

白沢久助長井又五郎河野彦左系門盛政中沢惣

九郎幸次鎌田權左系門内藏源助飯田左馬助今

福求之助同姓秀藏五味主殿助保坂盛物青沼縫

殿助両宮十兵衛風祭兵衛助南角十左系門牛奥典

惣左系門小山六郎兵衛向山新之丞窪嶋与市郎

安倍源太郎保科新兵衛小田切大隅山本主殿助

武藤松月奇延子駒井宮内工藤市兵衛同姓弥左

系門同姓甚太郎市川宮内同姓喜三郎小畑藤五

郎昌忠窪田内記塚原次左系門

以上同ク近習ノ衆ト云フ

○萩原甚之丞昌友窪田助之丞正勝同藤左系門

中村勘六安忠石坂勘兵衛森通志村又右系門貞



晴山奉孫右肅門忠房河野傳之丞通重

以上小人頭也

○大志萬興次郎海野市助甘利六之助中沢市左  
肅門大窪惣右肅門長谷惣右肅門金井主計助  
青沼興兵肅河合治兵肅塚田内藏助志村善右肅  
門五味源兵肅市川新右肅門塩里屋久兵肅萩原  
市之丞岩下七郎左肅門惣田七兵肅南宮左左肅  
門窪田平右肅門野呂瀬庄之助杉田次九肅門南  
切深右肅門宮沢善兵肅三沢佐右肅門同姓四郎  
兵肅點河新五兵肅小池主計助河西喜兵肅天川

兵部嶋田外記岩下又左肅門渡辺半左肅門村松  
喜太夫安部式部塚奉喜兵肅兩宮源之丞點沢善  
左肅門今井兵部末吉宮内沢藤兵肅川口彦三郎  
山村彦兵肅點沢織部深海民部加三兵肅門中  
山久右肅門高野清七郎初席庄右肅門任連本郷  
左肅門古田宮内小林主税分小田切主税分若槻次郎  
左肅門小池田兵肅河野又一郎細野源五左肅門安倍惣十  
郎須田民部植原市之丞岩下御左肅門山下弥兵肅植  
口三郎右肅門飯田甚五左肅門飯嶋作左肅門河野好右肅門花園  
藤兵肅岩槻主斗助一瀬弥五左肅門十室山郷左肅門柳井



民部廣瀨美濃三科傳三郎石黒將監石原五郎左  
末門藤堂新兵末油川宮内中込又兵末小沢佐九  
末門石原郷右末門保科善右末門飯室宮内同姓  
八郎兵末茶袋原菴之助 茶袋原八臣摩郎身  
延山西北地名十ノ花輪  
又三郎横田善次郎飯川彦四郎河手又九末門萩  
原孫兵末小沢喜平次大窪式部三井勘三郎大嶋  
居藤太郎長坂十左末門上村右近丞奇藤修理亮  
廣瀨市右末門本郷源三郎秋山権之助原帶口成  
嶋勘五郎福嶋十左末門磯野左大夫内藤主膳長  
井傳内窪田又右末門折井市之丞北村源右末門

同姓八左末門横村弥兵末穗坂主計助志村清三  
郎中込加助金丸助七郎細籠雅樂助小林弥右末  
門菊嶋弥助藤田弥三郎今村治三郎須沢又兵末  
風間甚八郎武藤久左末門吉田助三郎岩間作内  
武川市兵末

以上是ノ山縣衆ト云ノ

○落合惣兵末称津宮内柏原十兵末小田切次左  
夫河野内記小倉將監古屋織部河野鞆負助平尾  
三右末門飯嶋作三郎金丸善次郎清水主殿助小  
池又右末門古屋助之進田沢茂右末門清水庄吉



郎丸田甚四郎向山又八郎細野弥左衛門一瀬傳  
右衛門初鹿野金兵衛古田作太夫岩下惣太夫今  
井清十郎須田弥次右衛門河西共太郎三井平次  
郎東條民部饗庭民部右衛門内田市之丞関口惣  
十郎岡角三郎塚原新四郎山本源三郎切部次右  
衛門前嶋半兵衛平林作兵衛飯田市右衛門角田  
主斗夕市川四郎右衛門切部助七郎篠木弥助東  
條角右衛門河西甚五兵衛

以上是ヲ原隼人附衆ト云フ

○青柳内匠助青沼郷左衛門安部七郎兵衛矢嶋

長助横内民部左衛門坂本清三郎秋山九右衛門尉  
横田作之丞萩原作左衛門高軽藤四郎橋田藤十  
郎志村久右衛門渡邊藤三郎中込藤之丞飯田氏  
部

以上青沼助兵衛同心ノ士

○和田主計助須田長久石黒与五兵衛水上藤兵  
衛深津藤兵衛松原平助丸山市兵衛山本源三郎  
窪藤左衛門内田新十郎同姓又三郎向山宮内右  
衛門大村六右衛門一瀬清四郎小瀬村右近藥袋  
源七郎古田英助同姓小兵衛山宮山新七郎大窪



権右末門高野典十郎塚原藤八郎橋森織部西宮  
七右末門村田市右末門窪田小七郎牛尾源三郎  
樋口次左末門大沢半左末門風間藤七郎廣原庄  
右末門上野助之丞岡市之丞油田六之助中村九  
右末門依田縫殿丞中沢典八郎同姓善七郎野沢  
弥左末門水上久助青柳平五郎飯田惣兵衛小沢  
弥兵衛筒井藤七郎萩野助之丞鈴木典三郎原川  
西作右末門金子女右末門風間七郎右末門中村  
孫兵衛古屋新五郎辻甚内細野作左末門金丸藤  
七郎大嶋平五郎千野源之丞鮎沢主水志村小兵

末鮎沢楮之助長沢孫左末門同姓雅樂助同姓弥  
右末門總坂弥助高野五右末門總坂秀次郎依田  
善五郎塚本源助窪田久右末門野沢次郎岩本又  
次郎内藤久左末門

以上是ヲ一條衆ト云フ

○芦沢左近松原宮内安藤織部下條九左末門同  
姓作兵衛同姓孫兵衛窪南藤三郎相原次左末門  
同姓次兵衛千野左門同姓又右末門同姓七左末  
門塩入久左末門右原次右末門相原内近助澤河  
市左末門渡部三左末門相原兵部左末門同姓惣



左系門同姓執負助同姓九左系門井上戸右系門

以上是ヲ御嶽衆ト云フ

○三木助左系門高橋次左系門岩間惣一郎谷尾惣兵左系門石黒吉兵左系門矢田作左系門原助兵左系門同姓半兵左系門長沢左兵左系門坂本傳助野沢加右系門高野弥左系門西山金兵左系門廣瀬主計左系門同姓市助塚本勘七郎福嶋三郎右系門竹田助十郎山田源三郎野口又左系門河野助左系門三科惣七郎耳利民部左系門切原宮内

以上是ヲ小山田衆ト云フ

○三科孫兵左系門大嶋五兵左系門五味左系門鮎川次郎左系門惣田加兵左系門須田平左系門窪田孫七郎竹田左系門吉藤堂弥四郎饗場主祝分石井三右系門大窪四郎兵左系門同姓新兵左系門稻森甚九郎原監物奇藤四郎左系門古屋新九郎藥袋勘左系門同姓典外須田淡路原田仁兵左系門細野新左系門山田惣右系門小野喜兵左系門岩下清八郎平井作左系門萩原大炊中田清兵左系門丹沢主計助埜内彦一郎峯村新兵左

以上是ヲ遠山衆ト云フ



○倉林主水神宮右近寺嶋孫右衛門橋田三郎右  
衛門風間作左衛門國勘兵衛羽蓮善次郎太郎次  
郎渡辺惣兵衛小池七郎右衛門岩越肥後林主水  
駒井兵部石村源五右衛門下條主水穗坂清左衛  
門岩村清兵衛若名新九郎内田善十郎萩原次兵  
衛坂本作右衛門長田九助

以上是ノ栗原衆ト云フ

○土屋戈兵衛同姓典今深登左近水上藤六郎并  
上三郎兵衛九山次部右衛門向山兼女小田切雅  
樂助飯沼左馬助前嶋宮内助同姓典左衛門同姓

織部若尾藤三郎同姓惣三郎伊奈半兵衛乙黒弥  
三郎内藤又七郎白井内三郎小池十兵衛駒井兵  
部飯田助左衛門小柳津右衛門大関五兵衛矢津  
庄右衛門小野助大夫竹川新三郎古屋六兵衛同姓  
善十郎中村津三郎高田新七郎飯野助右衛門篠  
本新九郎

以上是ノ典廐衆ト云フ

○金西甚九郎安藤佐右衛門伴惣次尾崎彦八郎  
入戸野四方之助多田九右衛門下條久助相原権  
兵衛中沢波之助同姓惣助中山佐平治原田五右



右門塚田善内竹内依右末門駒沢惣市左末門間  
宮甚六郎小林加兵末木村仁兵末萩原久右末門  
槽原仁右末門春日四郎兵末山下新三郎大橋八  
兵末杉長次郎細野弥右末門金尾鞆負助高砂大  
十郎大窪甚八岩間郷右末門嶋野傳之丞平井十  
左末門小池監物小倉清三郎窪田典大夫萩原治  
右末門同姓弥兵末大村治左末門鶴田次右末門  
小沢深兵末古屋小兵末鈴木權次郎石原角兵  
末中込喜兵末雨宮十左末門日貝善五郎町田縫  
殿助

以上城織部昌茂同心之士

○落合九兵末奥山作左末門向山一平土屋折太  
郎河西源五郎小田切久七郎井門彦一郎渡邊善三  
郎金丸藤藏志村半兵末下新兵末井利帶刀志村  
九兵末篠原藤七郎小田切平次郎河西又兵末塚  
原典三郎野呂頼平作佐原十助塩木善三郎市川  
新三郎河村新三郎  
以上今福筑前加同心人等  
○小笠山淡路奥山織部森主水古屋宮内森源之  
丞飯嶋傳三郎鷹野傳左末門野沢半左末門鶴田



勇七郎前嶋源次郎樋羽三藏三井二郎三郎楠織  
部山下三右衛門太多木好吉奥山勇三郎小濱宮  
内石原日向藥袋帶刀橋田孫兵衛渡部又左衛門  
西宮孫九郎古屋助左衛門高野外記石橋忠九郎  
門岩間木工左衛門竹内 小嶋 横井  
北川 横森 白井 野口

以上曾根下野同心之士

○八藏兵部河野又兵衛萩原喜兵衛樋口又兵衛  
柏原兵四郎大村藤四郎田中作兵衛中沢新三郎  
赤藤彦兵衛同姓善助小宮山小兵衛田中藤右衛門

門同姓善五郎同姓勝之助并御織部竹野弥之丞  
小野市之丞鷹野右馬助同姓戸兵衛同姓弥兵衛  
沼上新十郎野沢宮内少輔善尾清七郎三科清五  
郎中沢角右衛門塩入藤兵衛横森兵左衛門藤堂  
藤兵衛元村惣十郎同姓惣兵衛中沢清三郎同姓  
藤七郎内藤惣兵衛矢嶋清五郎依熊甚右衛門同姓  
典三兵衛名所善次郎同姓弥左衛門石原善兵衛  
三井与五兵衛田中多門之助  
以上今福新右衛門同心之士  
○向山久兵衛関主水渡部鞞負脇又一郎土屋次郎



右系門早川弥三左系門中村与兵系後藤与三右  
系門梶原肥後飯嶋宮内早川平兵系上沢美濃油  
野豊後横屋市左系門向山佐渡落合将監丸山半  
右系門渡邊右馬助田中源九系門後藤久左系門  
高塚七郎兵系川野作右系門西宮藤九系門水口  
平大夫原田右系門田村助三郎祐津小兵系土屋  
甚五兵系鶴田内通助太田碓左系門小野水右系門  
小倉源兵系同姓弥助荒川善之丞油野勘三郎音柳  
源三郎井上権兵系大塚新之助関新兵系横田新  
八郎千野半之助柳沢市右系門土橋助大夫平井

十右系門油野藤右系門中村平右系門古屋与兵  
系飯野藤右系門小倉又四郎相良左近一瀬平三  
郎伴嘉右系門川口藤左系門武藤長助渡部左太  
郎篠木弥三左系門岩本圖書助矢嶋小左系門神  
山惣大夫清水勘七郎神戸太門野田助三郎渡邊  
清七郎金丸四郎兵系古屋新七郎藥袋九兵系

以上是ノ土屋衆ト云フ

○西山十右系門同八兵系同又六同源藏山本十  
左系門阿部源一郎藥袋靱負助

以上武田直泰衆ト云フ



○太田監物加美源次郎今福右馬助依田三郎  
左衛門高黨源三郎今祿善六郎御手洗新右衛門  
横井彦八郎石原茂助南角勘七郎古屋作兵衛  
屋市之丞河野三右衛門飯田雅樂助河西善十郎  
山下弥右衛門河部又六郎野呂瀨右近  
以上跡部大炊助同心之士  
○窪田平左衛門同姓作右衛門常田次右衛門浪  
江藤七郎中嶋勘三郎金治惣右衛門古屋八兵衛  
同姓民部竹井織部植田五郎右衛門西川新兵衛  
以上駒井右京進同心之士

○萩野宮内助橘田亦右衛門塚越弥三郎井口典  
兵衛八藏角左衛門坪内善之丞穗坂清九郎遠藤  
四郎兵衛保沢清三郎清水又兵衛同姓庄右衛門  
柳井織部飯室次郎兵衛加美六左衛門市川清  
兵衛長坂右近助村松勘五郎岩下市左衛門中嶋  
左近大夫同姓岩内助石原二郎三若見兵衛古屋  
惣左衛門

以上跡部九郎右衛門同心之士

○釜場弥八郎五味四郎右衛門竹川監物羽中四  
郎右衛門田邊新兵衛太田平左衛門養出雲丸山



次兵部三村清左衛門朝比奈權右衛門小林内藏  
助辻次郎兵部

以上甘利同心之士

右悉ク舊領ヲ賜リ恩澤ニ浴スル所ナリ然レニ

曲淵庄左衛門吉景ハ參河士ニ准シ今福求馬ハ

近臣ニ列ス

○先亡勢品ノ國司北畠具教卿ノ弟具親頃年中

國毛利家ニ倚賴シ寓居セシカ内ニ三七信孝ノ

謀送ニ依テ潛ニ南伊勢ニ至リ称生雅樂助安保

大藏片山大炊助山副等ヲ催シ五箇六呂木佐奈

大西丹生射沢ノ士千餘人ヲ催シ北畠信雄卿領

内多氣郡野呂越前守元真カ舊墨五箇ノ篠山ヲ

修築シ是ニ籠リ且ツ大河邊ヲ放火ス

ト云リ

時ニ臘月晦日



次在... 以上... 古志... 出洲... 近臣... 先文... 國... 大...

國朝大業廣記卷之四十三

天正十一癸未年

正月大

○朔日 參遠駿甲信五州ノ諸士濱松ノ城ニ登テ

新正ヲ賀ス今年始テ駿甲信御分國ト成リ參遠于

戈治リ士民安堵ス

○補將軍家譜是日秀吉播州姫路ニ赴ク二日秀吉酒肴

銀子及ヒ糧米ヲ諸士ニ與テ春初ヲ賞セシメ諸



士大ニ喜ニ宴ヲ設テ遊樂ニ早朝ヨリ中宵ニ至  
 〇秀吉散テ休息セシ執筆ノ者二三輩ヲ以テ  
 〇恩禄太刀衣服糧米等ノ費ヲ記シ監吏十人  
 〇定テ具後朝飯ヲ喫シ熟卧メ三日ノ晝時ニ至  
 〇眠リ覺メ氣色頻ニ新ニ思フモ柱クヘキ氣  
 然ニテ諸士及ニ神職僧徒ノ賀礼ヲモ受ラレ  
 〇此日勢州ニ於テ北畠信雄ノ臣津川玄蕃允義  
 冬田丸中務具政日置大膳亮本田左京亮親康多  
 氣郡五箇ノ篠山ノ城ヲ圍ニ責ト云々

〇二日恒例ノ如ク謠初ノ嘉儀了リ御家门ノ歴

ニ國衆登營ス

〇此夜勢州築山ノ城將北畠具親城ヲ避テ伊州ニ  
 赴キ彼國ニテ一揆ヲ募ル處ニ滝川三郎兵衛勝雅  
 之ヲ逐散ス具親カ臣稻生雅樂助ハ勢州三瀬ニ隱  
 〇居ル處ニ信雄三瀬左京進同波之助ヲメ之ヲ討  
 シム  
 〇七日 同上  
 〇補ニ秀吉上京ヤツテ泰ノ内ニ翌朝大津ニ到  
 〇テ乘船其夜安土ニ赴キ黎明ニ新正ノ賀儀ヲ三  
 法師居及ニ信雄ニ告テ五日滞留ニ柳カ瀬ニ到







益ト和睦ノ約ヲ破ント欲シ今日江ノ草津辺ニテ  
勢揃ニ先以テ滝川ヲ攻ニ為ニ七万五千ノ兵ヲ勢  
州口兵三千ニ分ツ一手ハ土岐多羅口ヨリ負辨郡  
へ一手ハ畑越ヨリ同郡へ一手ハ安樂郡ヨリ鈴鹿  
郡へ乱入セシメ當城主龜山ノ関万鉄存二男右兵  
衛尉一政共ニ蒲生家ニ據テ秀吉ニ属メ嘉儀ヲ述  
シ為ニ上洛スル虚ニ乘シ其臣岩間三太夫一族四  
十三人叛テ同郡龜山城ヲ居ナガラ乘取テ滝川一  
益ニ降ル瀧川則千鈴鹿郡嶺ノ城ヲ拔ク城守岡本  
下野守逃  
ス此城ニハ甥ノ瀧川儀太夫ヲ入置キ龜山ノ城ヲ

ハ佐治新助ヲ以テ守シメ新庄ノ城ニモ兵ヲ篋ル  
處ニ秀吉ノ先鋒羽柴秀長三好秀次嶺ノ城ヲ攻ル  
信雄ノ長臣津川玄蕃兄義冬及ニ織田上野介信兼  
モ加リ攻ル

○廿三日

○補<sup>同上</sup>秀吉モ兵一万五千ヲ率テ江南ニ至テ又

諸兵ヲ聚メ都合七万餘兵之ヲ分テ三ツトシ舍  
弟美濃守秀長及ニ筒井順慶伊藤掃部助氏家左  
京亮稻葉伊豫守ハ其兵二万五千ヲ率テ土岐多  
羅口ニ乱入シ甥三好孫七郎秀次及ニ中村弥平



次等ヲノ其兵二万ヲ率テ居切畑越ヲ侵掠シ秀  
吉其兵三万ヲ率テ岩谷難所ヲ論コシノ進ニ漣  
川ニ兵ヲ分テ之ヲ拒ク秀吉軍ヲ進テ桑名ノ邊  
ヲ放火ス滝川怒リ告ニハ吾既ニ兵ヲ分ツノ故  
ニ從兵多カラズ秀吉カ侵掠ヲ拒テ能ハス齒ヲ  
切リ憤怒セリ今夜敵陣ヲ伺ヒ襲ハ、豈ニ快カ  
ラサナンマ秀吉軍士ニ令メ云ク漣川モ亦武畧  
ニ老タル者ナリ渠必ス夜ニ來メ我ヲ襲シ汝等  
其レ懈テ勿レ是ニ於テ漣川カ謀計皆違ヌ秀長  
秀次ハ一益カ甥漣川儀大夫カ守ル所ノ嶺ノ城

ヲ攻ム秀吉カ先軍ハ佐治新助カ守ル所ノ龜山  
ノ城ヲ責テ之ヲ拔テ新助帰陣シ儀大夫モ亦和  
林議ヲ乞テ去ル秀吉ハ關安藝守木村隼人一柳市  
助直末山岡美作守景隆等ヲ人勢只テ守シム  
○是月神后御異弟松平原三郎勝俊駿州久能  
ノ城ヲ賜リ汝知弱ヨリ忠勤昆弟ニ超タリ故ニ  
要樞ノ城ヲ賜ト云ク又ニ備後ト云ク又ニ備前ト云ク  
○朔日神后岡崎ヨリ駿府ヘ還入シ玉ヲ



○十四日 甲州ノ舊臣日向半兵衛政成々存領竹  
居村并後信玄加恩ノ領知駿河厚原村ヲ元ノ如ク  
賜ル

○廿六日 秀吉蒲生父子関父子今日ヨリ龜山ノ  
城ヲ攻ル後日守將佐治新助城ヲ避テ桑名郡長嶋  
へ走ル鈴鹿郡關ノ地藏ノ新城ヲモ關父子加勢ヲ  
得テ陷ル河曲郡神戸ノ城將小嶋兵部ヲ信雄ノ臣  
林与五郎并秀吉勢頻ニ攻ル兵部城ヲ避渡ケレハ  
信雄當城ヲ則チ与五郎ニ授ク神戸ノ諸士ヲ附屬  
ス且ソ國府加太以下モ降参シ織田信兼ノ興カト

成ル秀吉ハ蒲生カ願ニ依テ龜山并関ノ新城ヲ関  
萬鉄存父子ニ賜フ

二月小

○八日 柴田勝家カ先鋒江州木ノ本へ出張ノ告  
アル故へ秀吉龜山ノ城ヨリ江北長濱へ赴キ嶺ノ  
城ノ手當トメ關ノ要害ニ堀柵ヲ營ミ蒲生氏郷関  
父子山岡美作守景隆普地四郎左衛門ヲ殘シ置ル  
○補<sup>同上</sup>柴田勝家ハ佐久間玄蕃允盛政ヲ大將ト  
シ其兵二万ヲ率ヒ木ノ本邊ニ出張シ盛政衆ト



○軍事ヲ談シ前田孫四郎利政ヲ先鋒トシ不破彦  
三佐久間久右赤門安次原彦次郎金森五郎八之  
指継テ盛政後ハヨリ進ミ兵ヲ分テ諸城ヲ守  
シト秀吉ハ長濱ヲ發シ志津ヶ嶽邊ニ到テ軍列  
ヲ定メ先ツ一番ハ堀久太郎秀政。柴田伊賀守勝  
○豊三番ハ木村小隼人堀尾茂助吉晴四番ハ前野  
勝右赤門淺野弥兵衛長政五番ハ生駒甚助小寺  
官兵忠孝高六番ハ三好孫七郎秀次中村弥平治  
七番ハ羽柴小一郎秀長八番ハ筒井順慶九番ハ  
六角須賀彦右赤門正勝十番ハ赤松弥三郎十一番

○ハ長岡典一即忠貞高山右近友祥十二番ハ次九  
秀勝仙石権兵衛十三番ハ中川瀬兵衛清秀其次  
ハ即千秀吉ニテ盛政ト對陣シ然レ敢テ戦スメ  
退キ翌日黎明ニ秀吉伴テ歩卒メ真似メ十餘騎  
ヲ率テ嶺ニ登リ敵營ヲ監臨メ歸リ告ニハ之ヲ  
抜テ速ニヌベカラズ諸兵ヲメ諸城ヲ守シムル  
ニハ如シト也

○十一日秀吉志津ヶ嶽邊ニ至リ数砦ヲ處々ニ  
築シメ兵ヲ籠置ト云ヒ  
○十二日先達テ甲州先方ノ士三枝土佐虎吉信



州佐久郡高野町ヲ守リ河江木ノ營ヲ攻ル城兵出  
奔不是ニ依テ神君ヨリ尊簡ヲ依田信蕃ニ賜フ

○下前山番等ニ依テ守那麻ニテ勸告臨中旨河江

右於退城ニ指多人夥ホ而テ入死セト上色白至

林甲府ト馬川局被表並目ニ依テのめりりる先

人夥ニ依テ守那麻ニテ勸告臨中旨河江

九市ト是也後又先守那麻ニテ勸告臨中旨河江

二月十二日 依田信蕃

依田信蕃

○十八日 松平周防守康親 豆駿ノ境目沼津ノ三

枚橋ニ在城ニ其功莫大ナル故一御朱印ヲ以テ恩

禄アリ

豫別於川東二万五千ノ費文帳目川東ニテ代

之事

右年東在東境目苦勞仕役者甚シ御知事外ニ

内山川海ノ地地等一切ニ用務之ニ亦宛然不

有テ遂後山東境目苦勞仕役者甚シ御知事外ニ

御知事外ニ

有矣見志也仍如件

天正十一



二月十八日 藤原

杉平因治之殿

○廿二日 柴田七九郎康忠申信二州ノ軍勢ヲ以  
テ一昨日ヨリ上杉景勝ノ持分小縣郡小諸佐久郡  
岩尾ノ兩城ヲ圍ミ攻ル處今日依田右末門佐信蕃  
弟加賀守信幸善九郎信春他ノ兵ヲ交ス一手ヲ以  
テ岩尾ヲ陥ヘテ音荒言ヲ吐テ曰口ノ枝城ニ登リ  
頻ニ士卒ヲ進メ岩尾ノ城ヲ攻撃ケルカ兄弟三人  
共ニ銳矢ニ中テ陣營ニ歸リ晚景ニ及テ各没ス  
附考ノ云ノ十年十月ニ 神君ハ信蕃ノ弟新九

郎源八郎ニ書ヲ賜フ事アリ此所ニ加賀守信幸  
善九郎信春トアルハ加賀守ハ新九郎ニ善九  
郎ハ源八郎ニテ稱ヲ改タルニヤ幕田記ト云ヘ  
ル依田氏ノ家録ヲ以テ追考スヘシ  
○或曰ク甲州先方ノ士杉原日向直明小幡藤五  
郎昌忠山中主水岩手助九郎塚原治助山本源藏  
知久式部頼氏河窪新十郎信正浪客塩沢無市或  
ハ鎧ヲ合セ或ハ首級ヲ得ル一宮修理松沢五助  
モ城兵突出ル時鎧ヲ合セ兩宮十兵赤市川内膳  
清成土屋三郎右末門鎧下ノ功名アリ  
其月日  
ヲ傳ス



○廿三日岩尾小次郎城郭ヲ捨テ上洛ス

○廿五日小笠原大膳大夫長時入道麟翁奥品會

津星備中入道味菴カ亭ニ於テ賊臣ノ為ニ殺サル

享年六十五歳ナリ

三月大

○神君依田右衛門信蕃并弟等カ忠死シ憐ニ信蕃

カ兩子ヲ召テ御称号御諱字ヲ賜リ嫡男竹福幸平

時ニ十<sup>四</sup>歳<sup>ニ</sup>ハ松平源十郎康國ト称ス父ノ遺領信只

佐久郡小縣郡ノ内六万石并加恩トノ駿甲兩州ノ

内ニテ四万石都テ十万石ヲ賜フ後修理大夫トニ

男福千代ヲハ松平新六郎康貞ト称ス後右衛門大

是<sup>也</sup>大久保七郎右衛門忠世命ヲ蒙リ信州ニ至テ

康國尚幼ナルカ故ハ經畧マサセ玉ヒ忠世康國カ

兵ヲ率シ小縣郡小諸ノ城ヲ攻ル城ニハ上杉ノ浪

客宇佐美民部定行景勝方トノ楯籠リ防戦ヲ勵ス

ト雖モ味方頻ニ攻テ田口ノ枝城ヲ陷ス大久保平

助忠教首級ヲ得ル宇佐美民部小諸ノ城ヲ弃テ越

後ニ走リ小縣郡大畧平治ニ松平康國則チ小諸ノ

居城トメ之ヲ築キ改メ郭内ヲ廣マ



附考ノ云ク此合戦ニ小幡又兵部昌忠知久式部  
少輔頼氏河窪与左部門信俊岩尾前山ニ於テ戦  
ニ大久保平助忠教田口ニ戦テ各首ヲ取ル杉原  
大和守直明ト佐久郡ニ戦テ功アリ三枝土佐守  
昌善ハ相木ノ砦ヲ攻陥ス

○或曰ク依田右部門佐々從士中沢彦次郎清秀  
ハ聊カ恨ル事アリテ嚮ニ出奔ス今度清秀カ弟  
五郎左部門ハ康國カ家ニ歸ル處ニ佐久郡岩村  
田ノ内永樂三十七貫文ノ堪忍分ヲ授ク慶長三  
戊戌年彼家斷絶ス同五庚子年神君ハ直泰シ

右ノ封邑ヲ賜フ子孫駿河垂相忠長卿ニ附屬ス  
ト云

○近衛前攝政前久公法諱龍山當時秀吉ト不快ニメ洛  
陽ヲ避ケ玉ニ遙ニ濱松ニ下向シ玉ノ處ニ神君  
之ヲ慰勞シ玉ノ事厚ク悠々ト滞留セラルト云  
○十四日 信州佐久郡ノ住士屋代左部門尉勝永  
後越中酒井忠次ニ據テ神君ニ屬スヘキ旨ヲ願  
望ス是ニ依テ印章ヲ授ラル

今夜は對面方、のち一味多う下勤むる彼那  
候も承りてありお遠征は以て、うらな励む信



仍如件

天正十一

二月十四日 家康

屋代丸島の府殿

○十六日 松平周防守康親カ長子右近丞ニ御諱

字ヲ賜フ康次ト稱ス後康重ト改ム

○補ニ康重實ハ神君ノ御落胤ナルカ故ニ

有徳公日光御詣ノ時防品侯ノ家ヨリ執政松平

乗色ニ窺ハレ康重ヘ賜フ處ノ葵ノ御紋ノ御旗

竿ニ入テ防州侯ノ旅行ニ持セラルト也且ツ康

重ハ御血脉アルノ故ニ松井家ノ文書等總テ康親ノ実子甚九郎家ヘ譲リ傳シト也

○十九日 柴田修理亮勝家越前ヨリ江北柳カ瀬

ノ中尾山ニ出張ス秀吉之ニ對シ跡以テ向城經營

アリ

○廿三日 秀吉柳カ瀬ヨリ濃州大垣池田紀伊守

信輝入道勝入カ城郭ヘ引入ル

附考ノ云ク廿八日諏訪安藝守頼忠ニ信品諏訪

○郡ヲ賜フ



四月小

○十二日 屋代勝永ニ尊翰ヲ送テル

計 今度身屬尚方幕下之候 為修之至 欣取之 為志  
田依田之談合 主事之御所 振西就之 軒要之 委

細之 大久保七郎右衛門之 子之 為修之

卯月十二日 為修

屋代九郎右衛門

○織田三七信孝 遂ニ自立ノ志ヲ顯シ 再ニ柴田滝  
川ニ謀シ合セ 兵ヲ岐阜ヨリ 発シ 秀吉方 稻葉伊豫  
守 通朝氏家内膳正行廣ノ 領内處々ヲ 放火ス 秀吉

怒テ 清洲ニ在ル處ノ 信孝ノ 母堂并其長臣 幸田彦  
左衛門カ 母ヲ以テ 安土ノ 城下ニ 磔ニス 人々唇ヲ  
翻シ 秀吉ノ 暴惡ヲ 憎ト云々

○十七日 秀吉 江州長濱ヲ 発シ 夜ニ入リ 大垣ノ  
城ニ至ル

○十八日 稻葉氏家ヲ以テ 信孝ノ 領内ヲ 放火シ  
且ツ 軍アリ 信孝方 幸田彦右衛門 兄弟 戦死シ 可見  
又 藏吉 長木 服善 次郎 忠往 石崎 次郎 右衛門 鎗ヲ 合  
ス 今日 神君 再ニ 屋代勝永ニ 尊翰ヲ 送テル

為修之 為修之 為修之 為修之 為修之 為修之 為修之 為修之 為修之 為修之



城ハ依リ柴田七九郎ヲ以テ何れモ攻メ得ズ  
松平ハ細方久保七郎等ヲ以テ之ヲ攻メ得ズ

○十九日 秀吉岐阜ノ城ヲ攻メント欲シケルニ前  
夜ヨリ暴雨頻ニメ呂久川ヲ渡ラシ得ズ先隊川端

ニ屯スル所ニ秀吉方江北志津ヶ嶽田神山ノ砦ヨ  
リ敵佐久間玄蕃元盛改餘湖ノ中川清秀カ砦ヲ攻  
拔ントス其兵若干ニメ跡ヨリ柴田勝家ニ出張ス  
ル由ヲ注進ス秀吉之ヲ聞テ氏家稻葉ヲ以テ岐阜

ヲ壓工即刻呂久ノ陣ヲ發シ酉ノ刻江洲木ノ本ニ  
至リ夜戌ノ刻田神ニ着陣アリ敵狼狽メ諸手一同  
引取ント先キ立ツ原彦次郎胤廣安井左近將監  
後殿メ退キケルカ折シニ月清明ニ秀吉方頻ニ  
幕ニ擊ツ近臣加藤虎之助清正紙暖簾ノ捺物也後  
主計カニ任シ肥後  
守ニ福嶋市松正則命ノ切裂麾ノ捺物ナリ加藤孫  
改ニ福嶋市松正則後左近門大夫ニ任ス  
六郎嘉明名左馬助後平野権平長泰命子羽織ヲ着  
不後遠江守  
任脇坂甚内安治白結ノ棧ノ捺物後  
中務少輔ニ任ス片桐助作直盛  
銀ノ棧ノ捺物也糟谷助右衛門武則後内膳  
正命清水坂ノ敵ヲ追散シ  
後東市正ニ任ス七人先登ノ清水坂ノ敵ヲ追散シ  
勇敢ヲ顯ス是ヲ云フ石川兵助一光及ニ秀長ノ臣



櫻井左吉伊木半七魁出ノ功ヲ抽テ一光命ヲ失フ  
敵軍大ニ敗セシ柴田三左衛門勝政等戦死スル者  
五六十人ト云ク

將軍家譜

○補<sub>二</sub>是月秀吉ハ長濱ニ歸リ柴田伊賀守勝豊  
ハ本山ノ砦ニ在テ病悩日ニ重ヲ以テノ故ニ所  
從ノ士卒ヲメ本山ヲ守シメ山路將監ハ本山ノ  
守兵木村小隼人ヲ殺メ勝家カ兵ヲ砦ノ中へ入  
ントセシカド其事發覺メ山路將監ハ逃去リ木  
村其母及ヒ妻子ヲ捕ヘ秀吉ノ命ヲ受テ之ヲ磔  
ニス

○補<sub>二</sub>是月<sup>同上</sup>三七信孝ハ佐久間盛政兵ヲ出スト  
関テ秀吉ノ約ヲ變シ又兵ヲ揚テ勝家ニ應ズ秀  
吉之ヲ関テ師ヲ帥テ長濱ヲ発シ大垣ニ到テ急  
ニ之ヲ攻ム

○補<sub>二</sub>是月<sup>同上</sup>山路將監ハ佐久間盛政ニ告ルニ秀  
吉美濃ニ赴ク是信孝ハ勝家ニ應ロシヲ攻ン為  
ナリ足下固ニ救ズンハアルヘカラス盛政カ云  
ヘルニハ吾尤モ之ヲ欲セリ汝カ言ヲ待ス然レ  
大山ヲ隔テ、在テ之ヲ奈何ニ仕難シ將監身語  
キ告ニハ敵ノ諸營皆嚴整ナリ然レ余語ノ湖水



ノ傍ナル中川瀬兵未清秀カ陣營經始甚タ也  
且ツ他ノ營ト相遠レシ若シ之ヲ撃ハ即チ不意  
ヲ撃ニテアレハ何ソ利無ルベキヤ秀吉美濃ニ  
赴クハ是柴田氏ノ慶ナリ盛政之ヲ諾シ往テ勝  
家ニ告ク勝家可ナリトメ我兵及ニ前田利家利  
長原秀次郎安井左近等ヲメ敵營ニ對陣スヘシ  
汝等速ニ中川カ營ヲ攻テ可ナラン戦終ラハ即  
チ速ニ歸ベシ慎テ滞リ勿レ是ニ於テ盛政其兵  
一万ヲ率テ余語ノ水傍ニ到リ不破彦三徳山五兵未  
佐久間久右衛門安次先鋒タリ時ニ中川カ兵湖

邊ニ水飼ヲ盛政カ兵之ヲ斬リ逃歸テ清秀ニ告  
ク是ニ依テ清秀高山右近其兵六千不破彦三佐  
久間久右衛門ト大ニ戦フ時ニ盛政兵ヲ分テ城  
下ノ人屋ヲ焼シム清秀高山カ軍破ル盛政兵ヲ  
進撃テ之ヲ破ル高山逃テ秀長カ本ノ本ノ陣ニ  
到ル清秀カ戦ノ城ニ入ル盛政勝ニ來メ城ヲ攻  
ム清秀其兵五六十ヲ率テ又奮戦ス衆寡過ク清  
秀ニ遂ニ勝ヘカラサルヲ見テ又城ニ入ント  
ス盛政之ヲ追ニ且ツ辱シメテ告ニハ清秀何ソ  
死サルヤ其怯弱ナルヲ笑ベシト清秀則チ怒リ



響ヲ返シ大ニ呼テ苦戦シ戈ヲ以テ敵五六人突  
キ近藤無一ト相接シ遂ニ戦死ス盛政清秀カ首  
ヲ捕テ勝家ニ送ル勝家大ニ悦ビ盛政猶ヲ此ニ  
陣ス勝家之ヲ頻ニ招テ五六度ニ及ヘテ盛政遂  
ニ従ガ  
○補<sup>同上</sup>秀吉盛政等清秀カ營ヲ攻テノ急ナルト  
関テ兵士ヲ忽チ馳テ美濃ヲ出テ志津ヲ嶽柳カ  
瀬ノ邊ニ赴ク其兵一万五千藤川ニ至テ曜靈景  
ヲ俄キ黎民皆松明ヲ持テ之ヲ迎ヘリ秀吉之ヲ  
悦フ長濱ノ人民ハ酒食ヲ齎ヒ馬藪ヲ束子来リ

迎テ秀吉大ニ其志ヲ賞シ遂ニ進テ志津カ嶽ニ  
到リ人ヲ諸營ニ馳テ之ヲ告ク○丹羽長秀ハ江  
品坂本ヲ焚メ志津カ嶽ノ城ニ入ル○佐久間盛  
政等ハ敵陣松明ノ甚ク多ク見テ陣中乱レ騒キ  
退陣セントノ後殿ヲ原彦次郎安井元近將監ニ  
乞テ原安井ハ之ニ従ヒ既ニメ安井ハ兵ヲ引テ  
去ル故ニ原一人後殿ニ敵ト屢々相戦フ盛政其  
兵壹万五六千ヲ率テ志津カ嶽ノ北嶽ニ登リ使  
テ柴田三左衛門勝政ニ馳ス勝政三千ノ兵ヲ率  
テ来テ盛政ト相合ス時ニ秀吉ノ大兵既ニ来リ



進ニ矢下ヲ砲發シ敵兵乱レ奔ル秀吉侍臣ヲノ  
敵ヲ撃シハ福嶋市松正則先ツ馳テ首ヲ取テ秀  
吉ニ獻ス西加藤平野昭坂糟屋石川片桐互ニ馳進  
ハ盛政ハ拜郷丑左衛門ヲ呼テ告ニハ先陣既ニ  
危シ汝其レ之ヲ圖レ拜郷突戦シ石川兵助之ト  
相逢テ共ニ戦死ス秀吉ノ兵競進テ敵ヲ追テ盛  
政尚ヲ諸軍ヲ麾ク原彦次郎告ニハ吾前驅メ一  
戦ヲ決スヘシ頻ニ之ヲ強ユレハ盛政之ヲ聽ス  
既ニメ秀吉ノ兵多ク衆ル丁谷ヨリ峯ヨリ出ル  
者兵士十ヲズト云フ一無シ是ニ於テ盛政カ兵

愈乱ル丹羽長秀之ヲ見テ時既ニ亘トテ其兵ヲ  
麾テ一同ニ馳戦ニ北國ノ後陣大ニ乱レ散ス是  
ニ於テ盛政久右衛門悉ク敗シ柴田勝政戦死ス  
○勝家ハ盛政カ敗ヲ例テ大ニ憤怒シ其兵ヲ衆  
メ換ニ僅カニ三千許リ也然レ勝家勇氣勃然トメ  
軍粧ヲ整ヘ秀吉ヲ待テ戦ントス家臣皆悦ズ特  
ニ毛受勝助諫ニハ天運既ニ窮レリ戦ト云フレ  
其功成ラシ余君ノ諱ヲ犯メ爰ニ死シハ君其レ  
北ノ庄ニ遁テ以テ自殺メ可ナラン歎  
○廿一日 茶磨山ニ於テ柴田カ電臣毛受勝助勝



吉ハ勝家カ金御幣ノ馬印ヲ預リ偽テ勝家ト稱ス  
其兄茂左衛門弟弟庄兵部以下騎士五十雜兵三百  
許リ奮戦メ忠死スル間ニ勝家遁去テ未ノ刻府中  
ニ至テ夫曰リ北ノ左ニ歸其兵僅カ

一日秀吉越前ノ府ニ至リ前田又左衛門利

和融ニ其外諸城悉ク退散



*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '和融', '秀吉', and '前田']*



